



日本语言·文化·传播丛书

第2辑

32 课精彩阅读多视角展示日本政治 社会 经济 文化 语言 生活

新日本语泛读

铁军 潘小多 林墨 编



中国传媒大学出版社



日本语言·文化·传播丛书

第2辑

32 课精彩阅读多视角展示日本政治 社会 经济 文化 语言 生活

新日本语泛读

铁军 潘小多 林墨 编



中国传媒大学出版社

图书在版编目(CIP)数据

新日本语泛读/铁军,潘小多,林翌编. —北京:中国传媒大学出版社,2015.8

ISBN 978-7-5657-1181-7

I. ①新… II. ①铁… ②潘… ③林… III. ①日语—阅读教学—高等学校—教材
IV. ①H369.4

中国版本图书馆 CIP 数据核字 (2014) 第 207917 号

封面照片出处:http://ganref.jp/m/linegold/portfolios/photo_detail...

新日本语泛读

编 者 铁 军 潘小多 林 翌

策 划 冬 妮

责任编辑 张 旭

责任印制 阳金洲

封面设计 大鹏设计室

出 版 人 王巧林

出版发行 中国传媒大学出版社

社 址 北京市朝阳区定福庄东街 1 号 邮编:100024

电 话 86-10-65450528 65450532 传真:65779405

网 址 <http://www.cucp.com.cn>

经 销 全国新华书店

印 刷 北京艺堂印刷有限公司

开 本 710mm×1000mm 1/16

印 张 16.5

版 次 2015 年 8 月第 1 版 2015 年 8 月第 1 次印刷

书 号 978-7-5657-1181-7/H·1181 定 价 59.00 元

版权所有

翻印必究

印装错误

负责调换

序 如何学好泛读课

泛读课是外语教学中的重要科目。但是，以往的泛读课由于教学理念、时间的限制，只注重教师讲课，而对教师与学生的互动有所忽视。在信息化的今天，教学环境发生了变化，泛读课的教学条件也有了改善，对泛读课的要求也相应提高了许多。

“泛读”也称为“阅读”，其概念有两个层面的解读：其一，泛泛而读，读懂即可；其二，广读各类文章。在精读课中，学生详细地学习了语法、句型及大量的词汇并在相当程度上掌握了它们。但现实地说，学生对精读课所学的东西有一个消化的过程，还不能马上全面、彻底地掌握。而且由于精读课篇幅所限，出现的词汇量不能满足需要。这些是精读课的劣势所在。为了解决这些问题，设置了泛读课，为精读课所学到的知识提供复习、练习的机会，使外语学习更整体化。

在信息时代，掌握词汇量的多少、句型运用的熟练程度如何是表达意志的关键之一，哪怕一个词汇使用不当、一个句型使用不到位，都可能导致自己的想法不能准确地传达给对方，有时甚至会造成误解。为了解决表达上的不充分和词汇量不足、熟练程度不够等问题，精读以外的科目，如泛读、听力、作文等被看作副科的课程就显得十分必要。

一、对泛读课程学习的要求和学习方法

泛读课基本定位在对精读课进行补充和辅助这一点上。从学习者的角度来看，有些课文如果作为精读课文来学习，就会感到困难。泛读课的教

学理念可以避免精读与泛读在难易程度上倒挂的情况。

泛读课文具有较强的可读性，除词汇、语法、句型外，还有拓展学生知识面的作用。如果要求与精读课一样，则不可能在2个课时内解决问题。所以，泛读课学习的目的与精读课应该有所不同。泛读要求学生经过预习、听讲、复习这样的学习过程后能读懂文章；知道句型、语法在课文中的用法、意义；记住主要词汇；能译成中文并且无大错。当然，所谓知道句型、语法，并不要求一定会熟练运用，对课文提及的日本语言文化和社会的知识有一个总体印象就算基本达到目的。

我校教学大纲为泛读制定的课堂教学时间为每周2个课时，目前大部分时间用于老师的讲解、提问，所以学生课外自主进行预习和复习至关重要。一般来说，课外预习、听讲、课外复习各用2个小时，即每周有课堂教学2个小时，预习、复习各2个小时，每周6个小时的学习时间就足以达到教学目的。有心者当然还可以进一步做一下朗读和翻译的练习。对难度与精读课不差上下、而学习时间又少于精读课的泛读课来说，主要问题在于怎样提高学习效率。一般来说，学生如果利用好上课听讲的时间，就可以有效弥补预习中的不足并提高复习的效果。

我们提倡课前做好预习，查出生词的读音，将未学的语法、句型标出并试读全文。上课时，集中精力听讲并能提出问题，不留死角。课后，对老师的讲课内容做一个回顾，看一看自己是否全部消化，是否达到了学习目标中所提出的要求。在有录音的情况下，利用录音来标出读音是一个省时省力的方法。课文后所附注释是对教师讲解的补充。单词读音部分要用心看，力所能及地多记。最后的练习问题是对文章内容的归纳，在时间、能力上有富余者不妨做一下，可增强对文章的印象。

为完成学习任务，复习也是非常必要的。所谓复习，就是在听讲后，进行相应的笔头、口语翻译及朗读的练习，对难点进行深入学习。

有的学生刚接触泛读时，会觉得比精读课还要难，无从下手，不知自己该学什么，该怎么学。实际上弄清上述几点，一切就迎刃而解了。泛读课学不好，也许会成为永远的缺憾。学了，总会有收获，学好了，就可以在日语的综合能力上有更大的提高。

二、我校二年级的精读课和泛读课现状比较

精读课与泛读课的比较	
精读课	泛读课
对语法、句型要求高，要求必须掌握。	对语法、句型并不要求熟练掌握，不拘泥于语法句型。
词汇量多，对全文必须会听、说、读、写、译。	词汇量多，尽可能做到会读、写、译。
文章可读性稍差。	可读性强，篇幅适中。
比起知识面的扩展，更重视语法、句型的活用。	重视知识面（语言、文化、历史）的扩展和阅读能力的掌握。
时间长（8学时）以上。	时间短（2学时）
课堂上各种练习多。	以老师讲解为主，基本无课堂练习，学生的预习、复习很重要。
有针对听、说、读、写、译各方面的练习。	无特别的作业。可根据各自情况对课内所讲内容进行思考，做一些汉字注音、句型造句、日译中练习。

从上表来看，泛读课的要求似乎低一些。但实际上，泛读课的学习要求并非不高，而是与精读课的学习方法、教学目的不同而已。总而言之，怎样巧妙地安排时间，做好预习、听讲、复习，消化好课文中的内容是学习有无成效的关键。一般在学过几课后，大多数学生会找到自己的学习方法，逐渐适应这一门课的要求。

三、泛读课功能扩展的必要性和基本条件

时代的进步和教学环境、教学理念的改变等诸种因素，把泛读课的教学改革推到了议事日程上来。虽然泛读课以及泛读课的教学方法、教学理念、教学效果在前一个时期取得的成果不容忽视，但并不能成为这门课一成不变的理由。

1. 必要性

首先,信息时代的特点要求我们必须提高以往泛读课的效率,不断扩展其教学功能。在国际化社会中,除了文书、文章的文字交流,人对人的口语也是交流的主要手段之一。在各种场合能明确地阐述想法、表达意见、做要点归纳越来越重要。虽然达到“读懂”,从泛读课的授课时间和上课形式等角度来说,已经算是完成任务,但是,泛读课中所学习的语言表达技巧不应仅仅停留在“读懂”这一层面上,在条件许可的情况下,有必要继续开发和提升。以往针对泛读课学习的基本要求仍有通过开发、扩展继续提高的可能性。

2. 基本条件

在目前条件下,时间是一个较为突出的问题。没有充裕的时间保证,提高泛读课的效率 and 扩展功能较为困难。首先,在规定的2个小时的课堂时间内,需要挤出更多的可用时间。目前,新型多媒体设备到位,总体教学环境有所改善,为教师与学生、学生与学生之间的互动带来了时间上的可能性,然而,实现这一愿望仍需做更多努力。

目前,依据泛读课在整体教学中的地位,我校为泛读课规定的课堂教学时间是每周2个课时。这是一个固定的条件,不可改变。因此,泛读课教学的实施,都要在此基础上进行。

在时间的分配上,可以按照以往的做法,提倡学生在课前进行两个小时的预习,解决基本词汇障碍,找出不懂的地方,以备在课堂上有的放矢地提问。课后的2小时复习也应坚持。按照以往的做法,根据每课的内容和难度不同,有时讲课时间会占去大半,没有太多的教师与学生互动的的时间。何况在25~30个学生的情况下,讲课后的互动时间仅为平均每人1分钟,不可能做到全面互动。

为了提高学习效率,应要求学生充分预习,在课前提出难点,以便教师明确自己讲课的重点。

3. 功能扩展的内涵

所谓“功能扩展”就是在以往仅仅读懂的基础上，趁热打铁，将迅速归纳、意见发表、翻译发表与接受教师指导这四项导入学习程序。

实施迅速归纳，目的是督促学生尽快熟悉教材中的观点、意向，找到中心大意和主要观点。这与泛读的基本要求一致。学生可通过归纳，培养敏捷的思维和迅速归纳总结的能力。

泛读教材得到全面的活用，泛读课的授课时间能够被充分地利用，每一个词汇、每一个中心话题都将其功能发挥到极致，是泛读课授课及学习最理想的状态。

在上述功能扩展的基础上，还可以做进一步设想：

(1) 将课文作为会话的基本素材。利用课文内容，提出话题，发表观点并进行讨论，通过这几项练习提高单词、语法的使用频度，以促进掌握。在调查中，曾发现有些学生对一些基本词汇和语法现象在课堂学习后从未主动使用过，处于一个自以为能听懂即已经掌握的误区。通过多种话题的会话练习可以使所学词汇、语法得到使用的机会，对正确使用日语的几种典型的接续关系有益。

(2) 作为笔译的基本素材。根据前辈翻译工作者的经验，即便是口译，具备高超的笔译水平也是十分必要的。笔译有思考时间，可以查询或与人商讨，可以在整个文章译完后进行全面修改，以不断提高翻译的质量，对培养高水平口译能力具有基础性意义。在学习泛读课文章后，做一些翻译作业并准备用口语发表，可以使教师了解学生的掌握情况，学生也可以取得相应的翻译练习效果。

(3) 作为口译的基本素材。系统的口译练习需要相应体系化的素材，而不是东一榔头、西一棒槌式的无序蛮干。经选择的泛读课文中，有不少优秀素材可转变为话题使用。口语练习，会对话题有一个较为全面的涉及，通过练习可以实现对知识点更全面的掌握。通过泛读课的学习，对象国的相关知识会作为储备话题储存在学生的脑子中。

(4) 作为毕业论文的选题素材。泛读的课文都是在围绕一个主题讲述一个观点成熟、逻辑性强的事例，对本科生毕业论文的选题有参考价值。尤

其是在泛读课中接触过的对象国知识会成为很好的背景资料。

4. 建立稳固的“教与学两极支撑”

教与学双方的积极性是保证泛读课功能扩展成功的关键。所有科目教学计划中制定的目标，都是以双方的积极性处于正常水平为准绳的，哪一个环节不正常，都会影响教学效果。保证教与学的积极性一直处于正常水平是最理想的状态。

学生，是课程实施效果的主要体验者和检验者。对教师的积极配合是优秀学生的基本要素。没有这种优秀学生作为学习者的主流在教学中形成积极向上的氛围，教师积极的教学态度和高超的教学技巧就无法体现出来，从而就不能说教学是成功的，先进的教学理念成了一纸空文。

现实中，部分学生认为泛读课是副科而不予重视，其学习态度的不端正，影响了教学的实施，以致于无法实现教学大纲中描绘的理想效果。要解决这个问题，作为学生首先要端正学习态度，对泛读课有一个正确深入的认识。

总之，要实现教学计划的顺利实施，让泛读课作为一门副科起到应有的作用、达到相应的效果，教与学两极之间的相互支撑必不可少。

结语

泛读课，作为精读课的补充和语言学习的一门课程，仍有设置的必要。提高信息量、增加词汇量、对所学知识做进一步巩固是泛读课的目标所在。本文中所提及的功能扩展，在一些学校也许早已有所实施，并不新鲜。我校日语专业的泛读课正处于一个新旧转换期，有必要通过教与学两极共同建立新的理念来使泛读课适应新的形势。

编者

目 录<<<Contents

第一学期

第一課	言葉の変化	/ 3
第二課	合掌造りの村を訪ねて	/ 10
第三課	駅一私の好きな場所	/ 20
第四課	日本の学校教育	/ 26
第五課	浦島太郎	/ 33
第六課	眠りについて	/ 41
第七課	自発を根本とするル・ラル	/ 47
第八課	祖母との時間	/ 55
第九課	慣用句のいろいろ	/ 62
第十課	日本文化に関する随筆二篇	/ 71
第十一課	映像と言葉	/ 81
第十二課	お見合い	/ 89
第十三課	頼む言い方と勧める言い方	/ 95
第十四課	天声人語	/ 100
第十五課	外来語と日本文化	/ 107
第十六課	泥 棒	/ 115

第二学期

第一課	手の機能	/ 129
第二課	誤 差	/ 135
第三課	宇宙人へのメッセージ	/ 141
第四課	友情について	/ 149
第五課	俳句の音	/ 155
第六課	お茶と仏教	/ 162
第七課	梅干し	/ 173
第八課	日本の旅 日本の道	/ 181
第九課	東京一極集中	/ 189
第十課	若い日の読書	/ 198
第十一課	「縮み」志向の日本人	/ 207
第十二課	科学文明の中の人間	/ 215
第十三課	朝 顔	/ 223
第十四課	鉛をかじる虫	/ 230
第十五課	おふくろの味	/ 238
第十六課	詩の味わい方	/ 243



第一学期

第一課 言葉の変化

今までになかったものが一つ作られると、それを表す言葉が一つ増える。空を飛ぶ乗り物が発明されて、「飛行機」という言葉が新しく生まれたなどはその例だ。逆に今まであったものがまったく使われなくなると、それを表す言葉も、忘れられて消えて行く。水素^{すいそ}ガスなどで空に浮かび、ゆっくりと人を運んだ乗り物は、「飛行船」と呼ばれたが、スピード時代になって、めったに使われなくなり、それとともに「飛行船」という言葉も、忘れられようとしている。言葉はそれを表すものとともに生まれたり消えたりする。ものを表す言葉ばかりではない。おもしろい、おかしい言回しは、人の好みに応じて、あつという間に流行り、あつという間に消え去っていく。いわゆる流行語だ。ついこの間はやったと思った流行語がすぐにすたれてしまう例を誰でもたくさん知っているだろう。

それなら、昔からあるもので、なくなったりはやったりすることのないものを表す言葉はどうだろうか。例えば、人間の「鼻」は^{おおむかし}大昔から今と同じく顔の真ん中に一つ付いているし、「耳」は顔の両側に二つ、「胴体」は頭^{どうたい}の下にあって、昔から、今まで数や位置^{いち}が変わったりしたことがない。そのような昔のままのものを表す言葉は、やはり昔のままだろうか。

確かに、このようなものは、ものがまったく変わらないのだから、言葉を変える必要も、新しく作る必要もない。「飛行機」のような言葉や流行語とは、わけが全く違っている。だから、言葉の方も、昔ながらの言葉がそのままいつまでも使われることが多い。「耳」を表す言葉や「口」を表す言葉は千二百年余りも昔の奈良時代から「みみ」であり、「くち」だったのである。このような例は他にもまだいろいろ

ろある。「山」「土」「虫」などもそうで、これらは、もしかしたら、数千年前までさかのぼっても、やはり「みみ」「くち」であり、「やま」「つち」「むし」であったかもしれない。人間の暮らしにとって、時代を問わず必要な、基本的な言葉は、あまり変わらないものなのだ。すぐに変わる流行語などに比べれば、あきれるほど^{きなが}気長に、同じ言葉を使い続けているというべきだろう。

もっとも、言葉は同じでも、発音が少しばかり変わることは珍しいことではない。例えば、「目」は今は「め」だが、ずっと昔は「ま」と言った。言葉は変わらないけれども、発音が「ま」から「め」へ変わったのだ。「手」は今は「て」だが、ずっと昔は「た」で、発音だけ変わった言葉である。

このような古い発音は、^{ふくごう}複合語の中に残って^{つた}伝わることが多い。例えば、^{てのひら}掌のことを「たなごころ」とも言うが、その「た」は手のことだ。「な」は今の「の」に当たる古い言葉、「ごころ」は「こころ」で、中心という意味を表す。心は体の中心にあると考えられていたから、「こころ」を中心という意味にも使うようになったのだろう。だから、「たなごころ」という言葉は手の中心という意味だったわけだ。

「目」に関係のある言葉に「ま」で始まるものが多いが、古い発音が残っているからである。次のようなものがその例だ。

まぶた——目(の)ふた

まなじり——目のしり

「しり」は行きづまりになった先^{しり}っぽのこと。人間の「お尻」も胴体の行きづまりになった^{さき}先っぽという意味である。

前(まえ)——目(の)え

「え」は方向という意味で、目のついている方向が、「前」というわけだ。ついでに言うと、「うしろ(後ろ)」を昔「しりえ」と言ったが、その「え」も「まえ」の「え」と同じで、「お尻」のついている方向という意味になる。

このように、人間の体^{にんげん からだ}の各部などの基本的な言葉は発音が変わることがあっても、言葉そのものは気長に使い続けることが多いのだが、必ずそうだというわけではない。どんどん変わるものもあるのである。

「頭」を表す言葉がその一例で、今の「あたま」に落ち着くまでに、

時代によって、いろいろな呼び方をした。

かしら、つむり、こうべ、くび

などである。昔の言葉は、前にも言ったように複合語の中に残ることが多いが、その他、方言として残っていることが多い。だから、地方によっては、これらの言葉のどれかを、今でも、使っている所があるだろう。

ところで、同じ物を表すのに、新しい言葉が使われるようになると、古い言葉は消え去るのが普通だが、うまく生き延びる場合もある。そんな場合、古い言葉は意味が狭くなる場合が多い。特別の意味を表す言葉として、生き延びようというわけだ。例えば、「かしら」は一番上のもの、または、一番初めのものを表す言葉として、生き延びている。

「十才の長男ちやうなんをかしらに、五人の子供をかかえて、母は懸命に働いた。」

などというのが今の「かしら」の普通の使い方である。「つむり」は「おつむ」という幼児の言葉の中に、やっと生き長らえている。「こうべ」は頭蓋骨ず がいこつを指す古めかしい「しゃれこうべ」という言葉の中に、残骸ざんがいをとどめるだけになってしまった。

だが、意味が狭くなる言葉がある一方、意味が広げられてきた言葉もある。「くび」を頭の意味で使ったのはその例だ。「くび」は元々、頭あたまや胴体どうたいのつなぎ目の細くくびれた部分を指す言葉だったが、そこから意味が広がって、頭全体を指すのにも使うようになった。今も、

「窓からくびを出さないように。」

などと言うことがある。頭と胴体のつなぎ目だけ出すことができるわけがないから、この「くび」は「あたま」のことである。昔、「くび」で頭全体を指すのが普通だった時代があったことの名残りが、こういう言い方に残っているわけである。

このように、どんな言葉でも、それぞれに生まれ育ってきた歴史を持っている。私たちは、普段何気なしなにげに多くの言葉を使っているが、考えてみれば、それは、私たちが、言葉の新しい歴史を作っているようなものだ。だから、一人一人、言葉の使い方に注意して、大切に育てていかなければならないのだ。

[新出単語]

乗（の）り物（もの）	[名]	交通工具
発明（はつめい）・する	[名・他サ]	发明
逆（ぎゃく）	[名]	逆，相反
水素（すいそう）ガス	[名]	氢气
浮（う）かぶ	[自五]	漂浮
スピード	[名]	速度
言回（いいまわ）し	[名]	说法
応（おう）じる	[自上一]	满足，适应
消（き）え去（さ）る	[自五]	消失
廃（すた）れる	[自下一]	废除，过时
大昔（おおむかし）	[名]	远古
胴体（どうたい）	[名]	躯干
確（たし）かに	[形動]	确实
昔（むかし）ながら	[副]	昔日，一如往昔
土（つち）	[名]	土
もしかしたら	[副]	或许
遡（さかのぼ）る	[自五]	追溯
暮（く）らす	[自・他五]	度日
問（と）う	[他五]	问，打听
呆（あき）れる	[自下一]	吃惊
気長（きなが）	[形動]	耐心，缓慢
もともと	[接続]	不过
掌（てのひら）	[名]	手掌
瞼（まぶた）	[名]	眼睑
眦（まなじり）	[名]	眼角
行（ゆ）き詰（づ）まる	[自五]	进展不顺，行不通
先（さき）っぽ	[名]	尖
お尻（しり）	[名]	臀部
落（お）ち着（つ）く	[自五]	定下来
方言（ほうげん）	[名]	方言
生（い）き延（の）びる	[自一]	生存下来，延年